

## 市場トレンド

私はこう読む

栗坂 秀夫

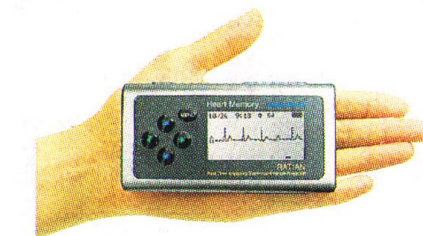
工業デザインは産業、社会、文化に貢献できるソフトだ。従来は色や形状、素材をうまく組み合わせて商品価値を高め、主に産業面で寄与してきた。最近では健常者から高齢者、障害を持つ人まで商品や住まい、施設を同じように使うためのユニバーサルデザインにも活用範囲が広がっている。

環境技研(東京・渋谷、佐藤勝義社長)は携帯心電計「ハートメ

## デザイン生きる携帯心電計 機能性・利便性 脈打つ

モリ HSG-301」=写真=を10月に発売した。心臓に疾患を持つ人が自身の状態を簡単に把握・管理できる。「心臓の鼓動がおかしい」「突然、動悸(どうき)が激しくなる」「胸が締め付けられるように苦しい」など異常を感じた時の心電図を記録できる。

心臓の状態は通常、健康診断に使う安静時心電図で測定するが、活動時や夜間に現れる異常はとらえられない。心疾患の疑いがある時は負荷心電図、24時間ホルタ心電図などを使うが、それでも十分



ではない。

ハートメモリは心筋の虚血を反映するとされる心電図のSTレベルの測定・表示が可能。不整脈だけでなく狭心症などの診断にも役立つ。心電図波形を医師に見せて診断に生かしてもらうこともでき

る。佐藤社長は工業デザイナー出身。ハートメモリは機能はもちろん、心臓に不安を持つ人が日常的に使って自己管理がしやすいようにデザインも細部まで十分に気配りしてある。

世界保健機関(WHO)がまとめた2005年の統計では、心臓疾患での死亡者は全世界で年間約1750万人。食生活の欧米化が進んだ日本でも約100万人の心臓病患者がいるとされ、年に約7万人が狭心症や心筋梗塞(こうそく)で亡くなる。企業や公共施設への自動体外式除細動器(AED)の設置が進んで心臓発作の救命率が向上しているが、携帯用心電計を活用した発作予防はより効率的だろう。

(パシフィックデザインアソシエーツ代表)